

# 木沢村の祭礼

民俗班 (徳島民俗学会)

高橋 晋一\*

## 1. はじめに

本稿の目的は、聞き取り・観察調査、および文献に基づき木沢村内の各神社における祭礼の実態を把握するとともに、村内各地域の祭礼の比較、さらには県内他地域の祭礼との比較を通して、木沢村の祭礼の特色を明らかにすることにある。

現在村内の多くの神社では、過疎・高齢化・少子化の影響により、伝統的な祭りの形が大きく変化(衰退・消滅)してしまっている。そんな中、現在も神輿・だんじりが出されたり、宵宮に余興が催されるなど、伝統的な祭りの形を比較的保っている宇奈為神社祭礼(木頭)・八幡神社祭礼(坂州)については、その現状をとくに詳しく記述しておきたい。

## 2. 木沢村内の神社・祭礼の概要

平成16年6～11月にかけて木沢村内で行った聞き取り調査および文献により、村内の神社<sup>1)</sup>・祭礼の概要についてまとめたのが表1である。

木沢村の祭礼の基本パターンは、宵宮は夕方よりだんじり、舞台での人形芝居や村芝居があり、翌日の本祭では午前中からだんじりを始め、正午頃より神事、その後神輿が境内を回ってお入りをした後、舞台で直会なおらいを行うというものである。

現在、祭りにだんじりが引き出される神社は2カ所、宵宮の晩に舞台で人形芝居等の催しが行われる神社はわずか1カ所のみとなっているが、表1に見るように、かつては13カ所の神社の祭りでだんじり

が引き出され、18カ所の神社の舞台で人形芝居や村芝居などが演じられていた。

次節では、村内でも伝統的な祭りの姿を比較的よく残している、宇奈為神社(木頭)、八幡神社(坂州)の祭礼の概要を紹介したい。

## 3. 祭りの事例

### 1) 宇奈為神社祭礼(木頭)

#### a) 宇奈為神社について

宇奈為神社(通称「十二社さん」)(写真1)は木沢村木頭字内の瀬1に鎮座する。祭神は豊玉彦命・豊玉姫命・玉依姫命。旧郷社で、延喜式内小社の宇奈為神社に比定される、那賀山分随一の神社である<sup>2)</sup>。



写真1 宇奈為神社(木頭)

\* 徳島大学総合科学部

表1 木沢村の神社・祭礼一覧

	神社名	所在地	旧社格	例祭	だんじり	舞台	備考
1	宇奈為神社	那賀郡木沢村大字木頭字内の瀬	郷社	10月31日 11月1日	あり	あり	
2	八幡神社	那賀郡木沢村大字坂州字広瀬	村社	11月22日 23日	あり	あり	
3	倭武神社	那賀郡木沢村大字坂州字宮の窪	村社	11月23日	なし	なし	
4	八幡神社	那賀郡木沢村大字坂州字大用知	村社	11月18日	あり(現在中断)	あり	
5	八幡神社	那賀郡木沢村大字当山字梅の久保	村社	10月23日	あり(現在中断)	あり	
6	八幡神社	那賀郡木沢村大字出羽字八幡森	村社	11月17日	あり(倭武神社と兼用、現在中断)	あり	
7	倭武神社	那賀郡木沢村大字出羽字宮崎	村社	11月17日	あり(八幡神社と兼用、現在中断)	なし	八幡神社(出羽)の飛地境内社
8	八幡神社	那賀郡木沢村大字木頭名字寺野	村社	11月5日	あり(現在中断)	あり	
9	八幡神社	那賀郡木沢村大字阿津江字加持久保	村社	4月15日	あり(現在中断)	なし(改築)	
10	神明神社	那賀郡木沢村大字阿津江字片山	村社	11月26日	なし	あり	八幡神社(阿津江)の飛地境内社
11	八幡神社	那賀郡木沢村大字横谷字くれ石	村社	11月18日	なし	あり	八幡神社(阿津江)の飛地境内社
12	八幡神社	那賀郡木沢村大字川成字東畑	村社	10月12日	なし	あり	八幡神社(阿津江)の飛地境内社
13	八幡神社	那賀郡木沢村大字岩倉字山神本	村社	10月13日	なし	あり	八幡神社(阿津江)の飛地境内社
14	八幡神社	那賀郡木沢村大字寺内字寺内(高野)	村社	11月20日	あり(現在中断)	あり	
15	倭武神社	那賀郡木沢村大字高野字森本(小泉)	村社	11月20日	なし	なし(廃絶)	八幡神社(寺内)の飛地境内社
16	八幡神社	那賀郡木沢村大字掛盤字上榎	村社	10月15日	あり(現在中断)	あり	
17	神影神社	那賀郡木沢村大字沢谷字谷屋敷	村社	7月17日	あり(現在中断)	あり	
18	八幡神社	那賀郡木沢村大字沢谷字杉ノ尾	村社	10月17日	あり(現在中断)	あり	
19	八幡神社	那賀郡木沢村大字小島字平畑	村社	10月16日	あり(現在中断)	あり	

(注) このほか、掛盤字岸峯の八幡神社(旧無格社)にも舞台あり。

文化12年(1815)の『阿波志』に、貞観15年(873)宇奈根神に従五位を授ける旨の記載がある。その後承暦年間(1077-80)頃、紀伊国から豪族湯浅権守俊明が来住、仁宇庄を領するにあたり、熊野十二社権現を本社境内に勧請したと伝える<sup>3)</sup>。

境内右手の舞台は天保年間(1830-44)頃の建立とされる(昭和34年に移転)。

#### b) 祭祀組織

氏子は木頭地区の29戸。ここ数十年、戸数自体に大きな変化はないものの、若者・子供の減少が著しい。

神社総代は5名(責任総代3、総代2)、任期3年(再任可)。祭りの責任者である当屋は6軒あて、1年交代(約5年に1度回ってくる)。神輿かき、だんじりは若連(若連中)が担当する。

#### c) 祭りの過程

##### ◇準備

だんじりの練習は、祭りの約1ヵ月前から土日曜を利用して神社の舞台で行っている。昭和30年代まで、舞台で4、5日練習した後、1ヵ月ほど「家まわり」(地区の各家を順に回ってお囃子の練習をする)をした。

だんじりの打ち子(だんじり子)は大太鼓1・小太鼓2・鉦1の5名。小学1～6年の男子が担当、昔は長男のみであった。最近は少子化のため女子も入っているが、それでも人が足りない。

だんじりは昭和35年に一度中断したが、昭和60年頃復活した。

##### ◇宵宮(10月31日)

この日は朝から祭りの準備をする。若連はだんじりの組み立て、飾り付けなど、当屋は<sup>のほり</sup>職立て、社殿・境内・舞台の掃除などを担当する。

18時より、打ち子5名と若連3名(大鼓1・小鼓2を奏しながら歌を歌う)により、だんじりのお囃子(当地では「だんじりの歌」「だんじりの音頭」などと呼んでいる)が奉納される。歌の「前段」を3回、「後段」を3回入れ、最後に「切り(せんきぎ千切り)」を1回入れる。だんじりの歌は、江戸時代に木頭・坂州・大用地の三地区の若者が京都

に赴き伝習したものという。そのためこれら三地区には、ほぼ同様のだんじりの歌が伝承されている<sup>4)</sup>。なお、同じ歌が木沢村から那賀郡上那賀町白石(白石神社、市宇神社)、拝宮(白人神社)にも伝えられている<sup>5)</sup>。

だんじりの構造は2層(2階建て)で、上層に打ち子、下層に若連が座る。村内他地区の神社のだんじりも同様の形態である。

この日は「お日待ち」と言い、神社総代や当屋は神社に残り、21時頃神職に祝詞を上げてもらった後解散する。昔は舞台に寝泊まりし、18時・0時・翌朝6時に神職がお日待ちの祝詞を上げた。

昭和23年頃まで、宵宮の晩に境内の舞台で地元の人形座(木頭座)が人形芝居をやっており、近隣地区からも大勢の見物人があった。

#### ◇本祭(11月1日)

この日は朝から祭りの準備。若連はだんじり、神輿の準備、当屋は社殿・境内・舞台の掃除、神饌の準備を行う。

11時頃より打ち子と若連がだんじりに上がり、奏楽を開始する(写真2)。だんじりの歌の「前段」を3回、「後段」を3回入れた後、千切り1回を入れる。



写真2 だんじり(木頭・宇奈為神社)

正午、だんじりの奏楽は一時休止、拝殿で例大祭の神事が行われる。神職・神社総代・若連代表が参

加。当屋は神幸(お練り)の準備をする。

神事終了後(12時40分)、神輿のお発ち。お練りは露払い、天狗が先導、金幣数名がお供する。12名の若連によって担がれた神輿は境内を一周した後、鳥居をくぐり、石段下に据え置かれる。ここで御旅所祭の神事を行う。神事終了後神輿はまっすぐ社殿に戻り、お入りとなる(13時)。ここでだんじりの歌を再開、前段1回、後段1回、千切り1回を入れて祭りは終了する。その後若連や当屋らが協力して後かたづけ(だんじりの解体・収納、幟下ろしなど)を行い、舞台で直会となる。

## 2) 八幡神社祭礼(坂州)

### a) 八幡神社について

八幡神社(写真3)は木沢村坂州字広瀬32に鎮座。祭神は品陀和氣命・足仲彦命・息長帯姫命。旧村社。創立年代不詳。



写真3 八幡神社(坂州)の社殿(左手)、舞台(右手)

境内の舞台は寛政3年(1791)再建の記録がある。現在の舞台は明治31年(1898)に再建されたもので<sup>6)</sup>、垂直に突き出しながら、客席側を斜めにカットした太夫座が特徴である。昭和49年、徳島県指定有形民俗文化財。平成10年、国指定重要有形民俗文化財。

### b) 祭祀組織

氏子は坂州地区の約100戸。

神社総代は6名(責任総代3、総代3)、任期3年(再選可)。当屋は8軒あて、1年交代(約13年に1度回ってくる)。神輿かき、だんじりは若連が担当する。

## c) 祭りの過程

## ◇準備

祭りの約2週間前から、集会所でだんじりの練習をする。かつては地区の家（15軒ほど）を順に回って行った。だんじりの打ち子は大太鼓1・小太鼓2・鉦2の5名（小学生男子）。昭和30年頃まで長男しか打ち子になれなかった。子供がたくさんいた頃は、打ち子は若連が指名した。当時の打ち子は小学5・6年生のみであったが、少子化のため次第に学年を下げ、現在は小学2、3年生も入っている。

宵宮の前々日18時頃より、だんじりの「当屋入り」を行う。当屋のうちの1軒（当屋長の家。最近は各地区の集会所が多い）で、練習の仕上げとしてだんじりの歌を入れる。

宵宮の前日18時頃より、だんじりの「宮入り」を行う。だんじりの歌を社前で奉納する。

## ◇宵宮（11月22日）

この日は朝から祭りの準備。若連はだんじりの組み立て、提灯の飾り付け、夜店のテント張りなど、当屋は幟立て、オシメ（注連縄）張り、社殿・境内・舞台の掃除などを行う。

16時よりだんじり開始。打ち子5名と若連3名（大鼓1・小鼓2を奏しながら歌を歌う）が、だんじりの歌（宇奈為神社に伝承されているものほとんど同一）の「1番」を適当な回数繰り返す。

だんじりは18時頃終了、引き続き舞台上で余興が行われる。余興は、恵比寿舞・若連の千畳敷・人形芝居<sup>7)</sup>と、若連の芝居を一年おきに行っている。舞台の前にゴザを敷いて観客席とする。昔は各家からご馳走や食器を入れた荷櫃を天秤棒に担いで持参し、飲み食いをしながら見物した。

カラオケ大会が行われた後、19時頃より木沢村芸能振興会により恵比寿舞が演じられる<sup>8)</sup>（写真4）。その後、19時30分より舞台上で若連による千畳敷（襖からくり。襖の引き分けや回転を見せ、最後に御簾を巻き上げたり、ロウソクで雰囲気高めながら最後に千畳敷の大広間を完成させる）の披露がある（写真5）。

20時より人形芝居。「傾城阿波の鳴門十郎兵衛内之段」が上演される（太夫＝竹本友和嘉氏、三味線＝豊澤町子氏、人形操作＝木沢村芸能振興会）

（写真6）。昭和24、5年頃までは地元の人形座（共楽座）が人形芝居を演じていたが、その後中断、昭和55年に地元の有志が結成した木沢村芸能振興会が人形芝居を復活させ、現在に受け継いでいる。

人形芝居終了後（20時30分）、花火大会があり、宵宮の行事は終了する。



写真4 恵比寿舞（坂州・八幡神社）



写真5 千畳敷（坂州・八幡神社）



写真6 人形芝居（坂州・八幡神社）

## ◇本祭（11月23日）

この日は朝から祭りの準備。若連はだんじりの準備など、当屋は社殿・境内・舞台の掃除など。

10時から正午まで、だんじりの歌を入れる（写真7）。打ち子5名と若連3名で、「1番」を適当な回数繰り返す（かつては「1番」を6回、「2番」を6回入れていた）。



写真7 だんじり（坂州・八幡神社）

11時頃より、神幸（お練り）の準備に取りかかる。当屋は神饌の準備、神幸具の準備、祭り終了後の直会の準備（舞台）。若連は神輿の清掃・準備。

正午より拝殿にて例大祭の神事。神職・神社総代・若連代表・巫女（氏子の小学生女子2名。豊栄の舞を奉納する）が参加。

13時、神輿のお発ち。だんじりの歌再開。お練りは露払い、天狗が先導、金幣7、8名が供奉。10名ほどの若連によって担がれた神輿は境内を一周して舞台の前に止まり、御旅所祭の神事を行う。その後神輿は境内を出て氏子区域を巡幸して御神酒などをいただく（国道筋と神社周辺地域のみを回る）（写真8）。昭和30年代までは神輿は境内を出ることはなかったという。

だんじりは、最後に「千切り」「御神楽」を入れて終了する。かつては千切りの後にだんじりを前後に引きながら伊勢節を歌った。

14時30分頃、神輿が神社に戻ってきてお入りとな

る。引き続き後かたづけ（だんじりの解体・収納、幟下ろしなど）を行い、舞台で直会となる。かつては直会には各戸から一人ずつ人が出た。



写真8 神輿巡幸（坂州・八幡神社）

## 4. おわりに

前節では、村内2ヵ所の祭礼の様子を詳しく紹介した。最後に村内各地区の祭り、さらには県内他地域の祭りとの比較をもとに、木沢村の祭礼の特色を明らかにしたい。

まず、村内全地区を通して、引き出される山車が引くタイプの山車＝「だんじり」であることに注意すべきである（表1）。徳島県の山車は、大きく分けて引くタイプ（だんじり）、担ぐタイプ（屋台）に二分される。県南には主にだんじり、県北には主に屋台が分布するが<sup>9)</sup>、木沢村は山車の形態から見ると「だんじり文化圏」に属することがわかる。ちなみに隣接する木頭村・上勝町・上那賀町などの山車も引くタイプ＝だんじりである。

だんじりの構造は2層構造（2階建て）で、上層に打ち子、下層に若連が着座することも木沢村の祭礼の特徴と言える。このことは、だんじりの歌の役割分担－打ち子（大太鼓・小太鼓・鉦）／若連（大鼓・小鼓）－と関連している。

村内の各地区に、特色ある「だんじりの歌」が伝えられてきたことも注目に値する。先述したように、

木頭・坂州・大用地の三地区のだんじり歌は江戸時代に京都から伝習したものとされる。この歌は当地からさらに隣接する上那賀町に伝えられており、民俗の伝播という点から興味深い事例を提供してくれる。掛盤<sup>かけばん</sup>のだんじり歌は京都から伝習したとされる祇園囃子（笛・三味線・鼓・歌入り）であった<sup>10)</sup>。当山では、打ち子（大太鼓1・小太鼓2・鉦2）が鳴り物を京都の祇園囃子に似た打ち方で打ち鳴らし、若連（三味線1、大鼓1、小鼓1、鉦<sup>しょうこ</sup>吾1）と掛け合いでだんじり歌を入れた<sup>11)</sup>。

また、戦前・戦後（昭和20年代はじめ）まで、村内の各舞台で人形芝居や村芝居が盛んに行われていた（現在は坂州のみ）。こうした「舞台文化」も村内の祭礼を特色づける重要な要素である。

祭り全体の構造を見ると、木沢村の祭りは、神事、神輿巡幸、だんじり、舞台での余興（人形芝居・村芝居）といった要素から組み立てられていることがわかる。具体的には宵宮（舞台での余興、だんじり）→本祭（だんじり、神事、神輿巡幸）という流れになるが、これは隣接する上勝町や木頭村、上那賀町などとも共通する「山の祭り」の特色と言える。

以上、木沢村の祭礼の特色を指摘してきたが、とくに当地の祭礼に関して（民俗文化財という視点から）特記すべき民俗は、八幡神社（坂州）祭礼の宵宮に舞台で奉納される恵比寿舞・千畳敷・人形芝居であろう。幸いなことに、これらの民俗芸能は、木沢村芸能振興会・若連の手により熱意をもって伝承されているが、国の重要有形民俗文化財に指定された坂州の舞台とともに、貴重な無形民俗文化財として、その価値を再認識する必要がある。

## 注

- 1) ここでは旧社格が村社以上の神社を取り上げた。
- 2) 安政3年（1856）の現社殿造立の際、北川村より中山村に至る仁宇谷全域と勝浦郡福原村までの37ヵ村に助成を依頼していることから、中山・和食より上流全体が当社の祭祀区域であったとも考えられている（式内社研究会（1987）、345頁）。
- 3) 式内社研究会（1987）、345頁。
- 4) 木沢村誌編集委員会（1976）、39頁。徳島県教育委員会（1989）、225-227頁。宇奈為神社祭礼のだんじりの歌の歌詞については、木沢村誌編集委員会（1976）、38-39頁を参照。
- 5) 上那賀町誌編さん委員会（1982）、71-73頁、291-292頁。拝宮（白人神社）には明治29年に導入されたという。
- 6) 木沢村誌編集委員会（1976年）、115-122頁。舞台の構造については、木沢村教育委員会（1988）、291-307頁に詳しい。
- 7) 宇奈為神社祭礼でも、宵宮の晩に恵比寿舞、千畳敷などが行われていたようである（木沢村誌編集委員会（1976）、40頁）。
- 8) 恵比寿舞の芸態・詞章については、木沢村教育委員会（1988）、311-314頁に詳しい。
- 9) 高橋（2005）、20頁。
- 10) 木沢村誌編集委員会（1976）、353頁。
- 11) 木沢村誌編集委員会（1976）、184-185頁。

## 文 献

- 阿波のまちなみ研究会編（1992）：『阿波の農村舞台』阿波のまちなみ研究会。
- 上那賀町誌編さん委員会編（1982）：『上那賀町誌』那賀郡上那賀町。
- 木沢村教育委員会編（1988）：『木沢村の民俗』那賀郡木沢村。
- 木沢村誌編集委員会編（1976）『木沢村史』那賀郡木沢村。
- 式内社研究会編（1987）：『式内社調査報告』23（南海道）皇學館大学出版部。
- 高橋晋一（2005）：「祭礼から見た吉野川流域の文化構造」中嶋信編『GISを援用した吉野川流域の地域構造分析』（平成13～16年度科学研究費補助金研究成果報告書）、15-45頁。
- 徳島県教育委員会編（1989）：『徳島県の民謡－徳島県民謡緊急調査報告書』徳島県教育委員会。
- 徳島県神社庁教化委員会編（1981）：『徳島県神社誌』徳島県神社庁。